

GAPによる安全な労働環境整備の 戦略的な実践方法について

<報告内容>

- 1.GAPの定義・意義・JAに
とってのGAP
- 2.GAPにおける労働安全の
取り組み
- 3.GAPによる労働安全実現
活動を支える戦略的手法

門間 敏幸
(東京農業大学名誉教授)

GAPの定義



● GAPの定義 1（農林水産省）

GAP（Good Agricultural Practice：農業生産工程管理）とは、農業において、**食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性**を確保するための生産工程管理の取り組み。「農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に即して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価による持続的な改善活動」（農水省GAPの共通基盤に関するガイドライン）。

● GAPの定義 2（田上隆一）

GAPとは、生産者が**農産物の安全性や環境保全**などについて適切な管理を実践することであり、あるべき農業の形に従う適正な農業管理の実践とその行為。

<GAP = 持続的農業経営実践の取り組み>

- ・ 農業経営における**労働安全を確保し、生産環境を守りながら、安全な農産物を持続的に生産**するための適切な管理の仕組みと実践。

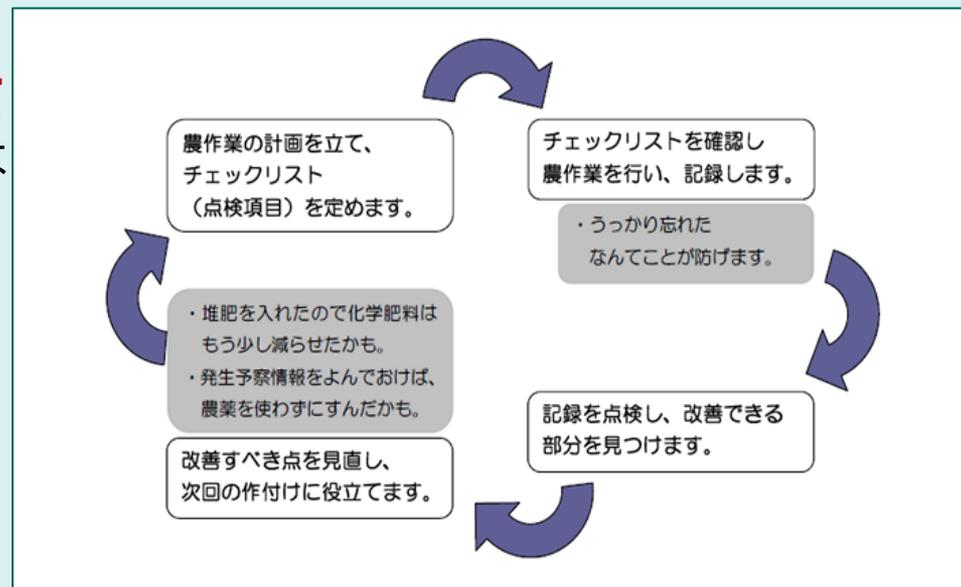
GAPの意義と必要性

◆GAPは、農業経営者として、自らも含む農業労働者の**安全**を守り、その生産基盤である地域の**環境**を守り、消費者に**安全・安心な農産物**を持続的に届けるための**農業経営の仕組み**であり、その取り組みの妥当性を**客観的に評価**できるようにする点に意義がある。

◆**社会に受け入れられ、職業として魅力ある農業経営**になるためには

- 1) コンプライアンス—法令、社会規範を守る
- 2) 消費者に受け入れられる農産物を生産
- 3) 地域の自然や資源を持続的に保全
- 4) 従業員として働く喜び、自己実現と成長、適正な報酬が得られる

といった条件を満たすことが不可欠となる。



出所：JA兵庫みらいHP

JAにとってのGAP

◆産地づくり・ブランドづくりの可能性を拓くGAP

GAPを実践することで消費者組織、農産物の流通・加工・販売企業との相互の信頼関係を構築し、持続的な産地づくり、ブランド形成を生産者主導で進めることができる。

◆JAと生産者の信頼を高めるGAP

部会組織の活動の新たな起爆剤として、GAPを推進することによりJAと生産者間の信頼確保、現場と一体となった産地づくり活動へのJA職員の意欲を醸成できる。

出所：農水省HP (http://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_zirei/pdf/4-22gifu.pdf)



◆新たな技術・経営指導分野を開拓するGAP

都道府県、特に普及指導機関と一体となったGAPの取り組みは、新たな技術・経営指導の分野を開拓し、生産者から大きな信頼を獲得できる可能性がある。

GAPにおける労働安全の位置づけ

- ◆わが国のGAPは、食料安全確保（消費者、実需者の信頼確保）を第1の目的として農水省が推進。大手流通業者が先行して**EUREPGAP**をモデルとしたGAP規準が作られ**食品安全の確保が重視**された（田上論文）。その背景には、食品の安全性を脅かす事件が頻発（O-157、BSE、無登録農薬の使用等）。
- ◆**生産者主導のGAP**では、農業経営持続の条件としての**労働安全の取り組み**を第1の目的とすべきと考える。
- ◆**運動論的な性格**が強かった労働安全の取り組みに対して、**GAPは組織的に実効性の高い労働安全の実現手段**となる。
- ◆また、**JA**にとっては**団体認証**で取り組むGAPは、多くの生産部会構成員を巻き込み、**労働安全の取り組みの効果をも高める**可能性がある唯一の手段である。



出所：JA北さつまHP

労働安全実現におけるJGAPの取り組み- 1

番号	レベル	管理点	適合基準
14.労働安全管理及び事故発生時の対応			
14.1	必須	作業者の労働安全	<p>① 圃場、作業道、倉庫・農産物取扱い施設及びその敷地等における危険な場所、危険な作業に関するリスク評価を年1回以上実施し、事故やけがを防止する対策を文書化している。リスク評価とその対策は、自分の農場及び同業者で発生した事故やけがの情報や自分の農場で発生したヒヤリハットの情報を参考にしている。危険な作業として下記を必ず評価の対象としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 乗用型機械の積み降ろし及び傾斜地や段差での使用 2) コンバインの使用 3) 草刈機(刈払い機)の斜面・法面での使用 4) 耕耘機の使用 <p>② 上記①で立てた事故やけがを防止する対策を周知し実施している。</p> <p>③ 圃場、倉庫、農産物取扱い施設及び作業内容に変更があった場合には、リスク評価とその対策を見直している。</p>
14.2	重要	危険な作業に従事する作業員	<p>管理点14.1で明確にした危険な作業を実施する作業員は下記の条件を満たしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 安全のための十分な教育・訓練を受けた者である(管理点11.7参照)。 ② 法令で要求されている場合には、労働安全に関する公的な資格または講習を修了している者、もしくはその者の監督下で作業を実施している(管理点11.8参照)。 ③ 酒気帯び者、作業に支障のある薬剤の服用者、病人、妊婦、年少者、必要な資格を取得していない者ではない。 ④ 高齢者の加齢に伴う心身機能の変化をふまえた作業分担の配慮をしている。 ⑤ 安全を確保するための適切な服装・装備を着用している。
14.3	重要	労働事故発生時の対応手順	労働事故発生時の対応手順や連絡網が定められており、作業員全員に周知されている。

JGAP

ジェイギャップ

Japan Good Agricultural Practice

(日本の良い農業のやり方)

農場用 管理点と適合基準

穀物

2016

2016年9月1日 発効

JGAP



労働安全実現におけるJGAPの取り組み- 2

番号	レベル	管理点	適合基準
14.4	重要	事故への備え	労働事故発生に備えて、清潔な水及び救急箱がすぐに使えるようになっている。救急箱の中身は管理点14.1で評価したリスクへの対応に必要なものを用意している。
14.5	必須	労働災害に関する備え(強制加入)	法令において労働災害の補償に関する保険が存在し、農場がその保険の強制加入の条件に相当する場合にはその保険に加入している。
14.6	努力	労働災害に関する備え(任意加入等)	① 労働者が労働災害にあった場合の補償対策ができている(管理点14.5で保険に加入している場合を除く)。 ② 経営者や家族従事者が労働災害にあった場合の補償対策ができている。

JGAP

ジェイギャップ

Japan Good Agricultural Practice

(日本の 良い 農業の やり方)

農場用 管理点と適合基準

穀物

2016

2016年9月1日 発効



GAPで農作業安全

毎年、農作業中の事故により、**約400人が亡くなっています**

みなさんが農作業事故で亡くなったり、けがで働けなくなったら、家族や周りの方々、田畑、産地はどうなってしまいますか？

安定した経営と、
何よりも**家族の笑顔**を守るため、

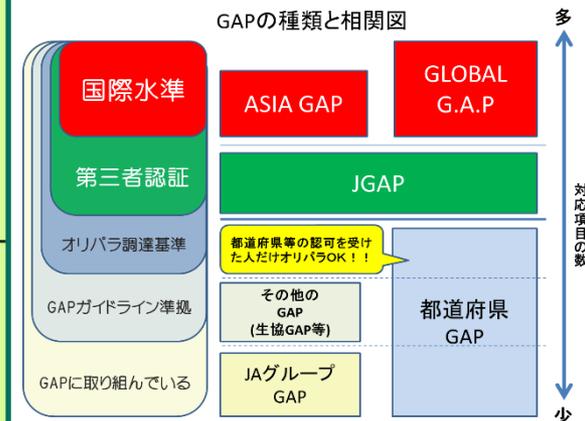
GAPで農作業安全に取り組み、
事故を未然に防ぎましょう！

出所：農林水産省HP

労働安全実現におけるASIAGAPの取り組み- 1

番号	レベル	管理点	適合基準
14.労働安全管理及び事故発生時の対応			
14.1	必須	作業者の労働安全	<p>① 圃場、作業道、倉庫・農産物取扱い施設及びその敷地等における危険な場所、危険な作業に関するリスク評価を年1回以上実施し、事故やけがを防止する対策を文書化している。リスク評価とその対策は、自分の農場及び同業者で発生した事故やけがの情報や自分の農場で発生したヒヤリハットの情報を参考にしている。危険な作業として下記を必ず評価の対象としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 乗用型機械の積み降ろし及び傾斜地や段差での使用 2) コンバインの使用 3) 草刈機(刈払い機)の斜面・法面での使用 4) 耕耘機の使用 <p>② 上記①で立てた事故やけがを防止する対策を周知し実施している。</p> <p>③ 圃場、倉庫、農産物取扱い施設及び作業内容に変更があった場合には、リスク評価とその対策を見直している。</p>
14.2	重要	危険な作業に従事する作業者	<p>管理点14.1で明確にした危険な作業を実施する作業者は下記の条件を満たしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 安全のための十分な教育・訓練を受けた者である(管理点11.7参照)。 ② 法令で要求されている場合には、労働安全に関する公的な資格もしくは講習を修了している者、またはその者の監督下で作業を実施している(管理点11.8参照)。 ③ 酒気帯び者、作業に支障のある薬剤の服用者、病人、妊婦、年少者、必要な資格を取得していない者ではない。 ④ 高齢者の加齢に伴う心身機能の変化をふまえた作業分担の配慮をしている。 ⑤ 安全を確保するための適切な服装・装備を着用している。
14.3	重要	労働事故発生時の対応手順	労働事故発生時の対応手順や連絡網が定められており、作業員全員に周知されている。

ASIAGAP

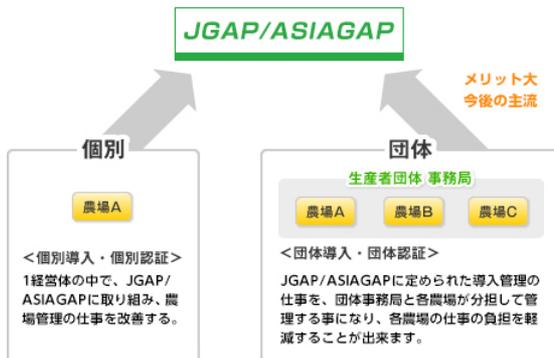


出所 : <https://agri-ftk.com/gap-syurui>

労働安全実現におけるASIAGAPの取り組み- 2

番号	レベル	管理点	適合基準
14.4	重要	事故への備え	労働事故発生に備えて、清潔な水及び救急箱がすぐに使えるようになっている。救急箱の中身は管理点14.1で評価したリスクへの対応に必要なものを用意している。
14.5	必須	労働災害に関する備え(強制加入)	法令において労働災害の補償に関する保険が存在し、農場がその保険の強制加入の条件に相当する場合にはその保険に加入している。
14.6	努力	労働災害に関する備え(任意加入等)	① 労働者が労働災害にあった場合の補償対策ができている(管理点14.5で保険に加入している場合を除く)。 ② 経営者や家族従事者が労働災害にあった場合の補償対策ができている。

JGAP/ASIAGAPの2つの取り組み方



出所：日本能率協会・審査登録センターHP



出所：ASIAGAPを神奈川県で初めて取得した秦野いとう農園の記事（神奈川のタウンニュース2018.1より）

労働安全実現におけるGLOBALGAP の取り組み- 1

AF. 4	働く人の健康、安全、福祉	
	どの農場においても、安全で効率的な経営の鍵となるのは「人」であるといえます。生産者自身だけでなく、農場のスタッフ、そして契約労働者が、生産物と環境保護との質を表す存在であるともいえます。教育と訓練とが、持続可能性達成に向けた前進と、社会資本構築の助けとなるでしょう。このセクションの意図するところは、労働現場での安全作業の規範を確かなものとし、その内容を働く者全てが理解するとともに、彼らが任務を実施するのに必要な力量を持つこと、そして、安全に働くための適切な器具を支給すること、また、事故が発生した場合には、正しく、タイミングのよい支援を受けられるようにすることです。	
AF. 4.1	健康と安全	
AF. 4.1.1	作業者の健康と安全に対する危害要因についてのリスク評価文書がありますか。	リスク評価文書は、一般的な内容のものでよいが、認証範囲に含まれる全ての生産プロセスを網羅した、その農場の条件に見合った適切な内容でなければなりません。毎年、見直しと更新を行わなければなりません。また、作業者の健康と安全に影響を及ぼすような変化があった場合（例えば、新しい機械、新しい建造物、新しい農業及び特定防除資材の導入、耕作方法の変更など）、リスク評価の内容を見直し、更新をしなければなりません。危害要因には次のものがありますが、これらのみ限定されるわけではありません：機械の動作部分、動力取り出し装置（PTO：パワーテイクオフ）、電気、農業機械と車の通行、農場内の建物火災、有機質肥料の施用、ひどい騒音、ホコリ、振動、著しい高温・低温、ハシゴ、燃料タンク、スラリータンクなど。適用除外禁止。

労働安全実現におけるGLOBALGAPの取り組み- 2

N°	管理点	適合基準
AF. 4.1.2	AF.4.1.1 のリスク評価で特定された事項に言及した健康、安全のための手順文書がありますか。	健康、安全の手順書には、少なくともリスク評価(AF4.1.1)で特定された点に言及しており、その農場での活動にふさわしい内容でなければなりません。この中には、作業現場で特定済みのリスクに対処するための事故と緊急時の手順、緊急時対応計画(訳注=危機管理計画)等を含みます。必ず手順の見直しを毎年行い、リスク評価の内容に変更があった場合は更新をしなければなりません。 実現可能な範囲で、作業者の健康・安全に対する危害要因を最低限に抑えるように農場のインフラ、設備機器をつくり、維持管理しなければなりません。
AF. 4.1.3	農場で働く人全員に対し、AF.4.1.1 のリスク評価の内容に従った健康と安全に関する教育訓練を実施していますか。	(検査当日に可能であれば)外部委託業者も含む全ての作業者が、それぞれの分担及び業務における力量を持つことが目視確認できること。適切な言語による作業指示の証拠、及び教育記録が確認できること。トレーニングのための指示や、その他教材が利用できるのであれば、生産者が健康と安全に関する教育を実施してもよい(外部による教育訓練の実施が必須というわけではない)。適用除外禁止。

Code Ref: IFA V5.1_July17; 日本語版
 管理点と適合基準 - 全農場基本
 Page: 12 / 121



TR4 BIOSECURITY
ADD-ON FOR BANANAS

SAVE THE BANANA ACTION SIGNATORIES
 Supported By the Ministry of Agriculture Peru



AEON



REWE GROUP

Spinneys
The fresher experience

syngenta

TRICHODEX



出所 : <https://www.globalgap.org/ja/>

労働安全におけるGAPの戦略的活用の意義

● 雇用型農業法人の労働安全におけるGAPの戦略的活用の意義

- ① 従業員や家族を**事故から守る**のは経営者としての最重要の責務
- ② GAPは運動ではなく、労働安全のリスク発見・リスク防止ルールや手段を体系的に整備して、**経営体の労働環境の改善**に大きく貢献できる。
- ③ GAPに基づく労働安全活動は、従業員の仕事に対する意欲・責任感や自主性、業務改善に対する意欲、従業員と経営者、従業員同士の相互理解と意思疎通を良くする。**労務管理の効果**が大きい。

● 高齢農家、兼業農家を含む家族農業経営の労働安全におけるGAPの意義

- ① **JAや普及指導組織**による**団体認証**に取り組むことにより、労働災害リスクが最も高い階層でかつ労働安全に対する自主的な取り組みの**インセンティブが働かない階層の労働安全**に組織的に取り組むことができる。
- ② **多くの農家が参加**することにより、労働安全に関する広範なリスクが探索され、**多様な防止対策がルール化**される。個々の農家はそれらの広範なリスク、対策の中から、**自らの経営に適合するものを自主的に選択**して実践することができる。
- ③ GAPの細かなチェック項目や**管理基準を理解しなくても参加**できる。

労働安全におけるJAによる団体認証の意義

- 田上が強調するように、**GAPは具体的な営農指導**であるという捉え方が重要であり、これまでのJAや普及による営農指導の延長線上にある。
- GAPが指示する最低限の規準と管理点に従って、営農指導を体系的かつ**生産者と部会事務局**との間での明確な**責任分担**の体制の中で実施できる。
- JAの部会事務局は、それぞれの生産者が抱える**営農上の問題と克服方策を体系的に把握**することができる。



出所：魚沼WEBニュース、2014.8

労働安全におけるGAPの戦略的展開に活用できる手法

◆戦略立案支援手法

- **SWOT分析** – 組織の強み、弱み、外部環境変化の機会と脅威を組合わせて戦略を立案
- **バリューチェーン** – 価値（仕事）の連鎖の中で重要な問題を探索
- **バランススコアカード** – 企業の経営戦略を「学習と成長」「業務プロセス」「顧客」「財務」という4つの視点で評価し、実施状況をモニタリング

◆問題解決手法

- **特性要因図** – 問題の原因を探し出し、その対策を考える手法
- **ロジックツリー** – 問題を解決する方法をきれいに洗い出す方法
- **ブレインストーミング** – 多くの人々のアイデア（問題）を集約する方法
- **フィリップス66法** – 問題の発想と評価を6人のグループで6分で行う方法
- **マインドマップ** – アイディアや問題を拡散しながら発想する方法
- **KJ法** – 断片的な問題要素を組み合わせて体系的に整理する方法

● マネジメント手法

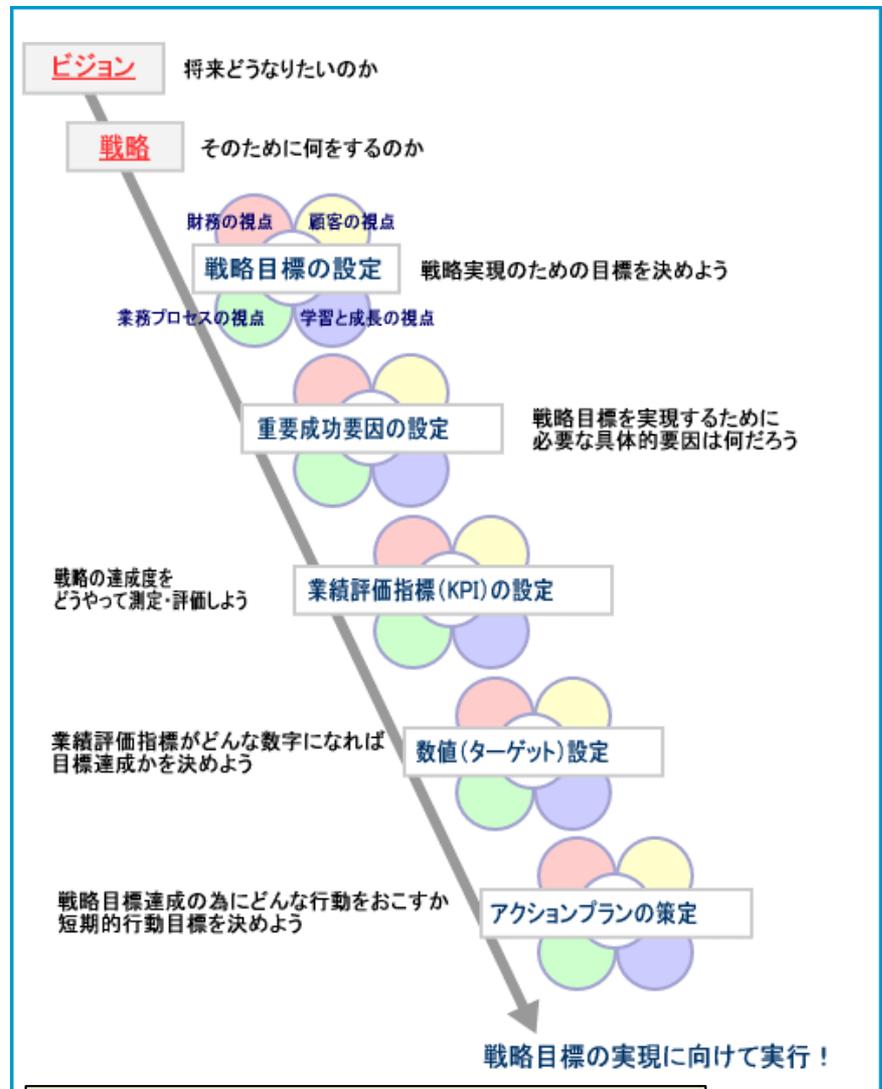
- **PDCA** – 計画 (Plan)、実行 (Do)、検証 (Check)、改善 (Action) のサイクルを回して持続的な経営改善を実施する方法
- **5W1H** – 活動を、何を (What)、誰が (Who)、いつ (when)、どこで (Where)、なぜ (Why)、どのように (How) で表し具体化する方法
- **3M** – ムリ、ムダ、ムラ (3M) を洗い出して解決の重要度を付ける
- **5S** – 整理、整頓、清掃を心がけて職場を清潔に保つ活動を習慣化すること
- **ハインリッヒの法則** – 一つの重大な事故の背景には、29の小さな事故があり、その裏には300件のヒヤリ・ハットが存在する

戦略的労働安全実施活動の展開プロセス

- その1 – **思い**（目的）の共有
- その2 – 徹底的な**話し合い体制**の整備
- その3 – 部会が抱える**問題の徹底分析**
- その4 – 部会活動の**目標と理念・哲学・キャッチフレーズ**を創る
- その5 – TN法を活用した**リスクの抽出と評価**
- その6 – **リスク削減方法**の提案と有効性評価
- その7 – **バランススコアカード（BSC）**による**戦略的労働安全実施活動**の体系的整理
- その8 – 農業労働安全活動の**支援機関・実施時期・推進上の課題**を整理

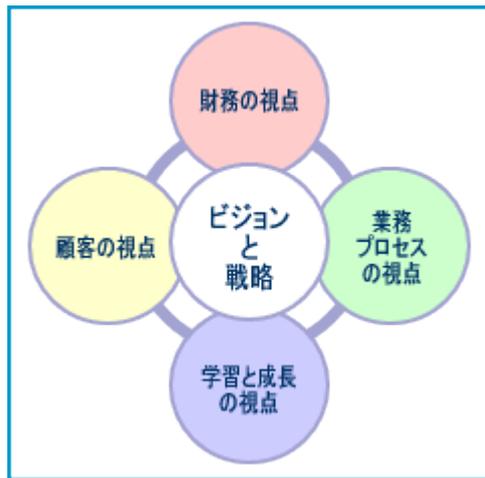
バランススコアカード（BSC）モデルとは

- バランススコアカードは、経営におけるビジョンを明確にして、そのビジョン実現のために**戦略的**な経営を実践する**マネジメントシステム**。
- 設定された経営体のビジョンや目標の実現を、**財務の視点、顧客の視点、業務プロセスの視点、学習と成長の視点**の4つの視点から実践するための戦略を立てる。
- その戦略の実践を、重要成功要因→業績評価指標→アクションプランと実践業務で評価し、**目標達成プロセスを管理**する。
- この考え方は、**GAP**を活用した労働安全実現のための戦略的実践モデル開発に有効に活用できる。



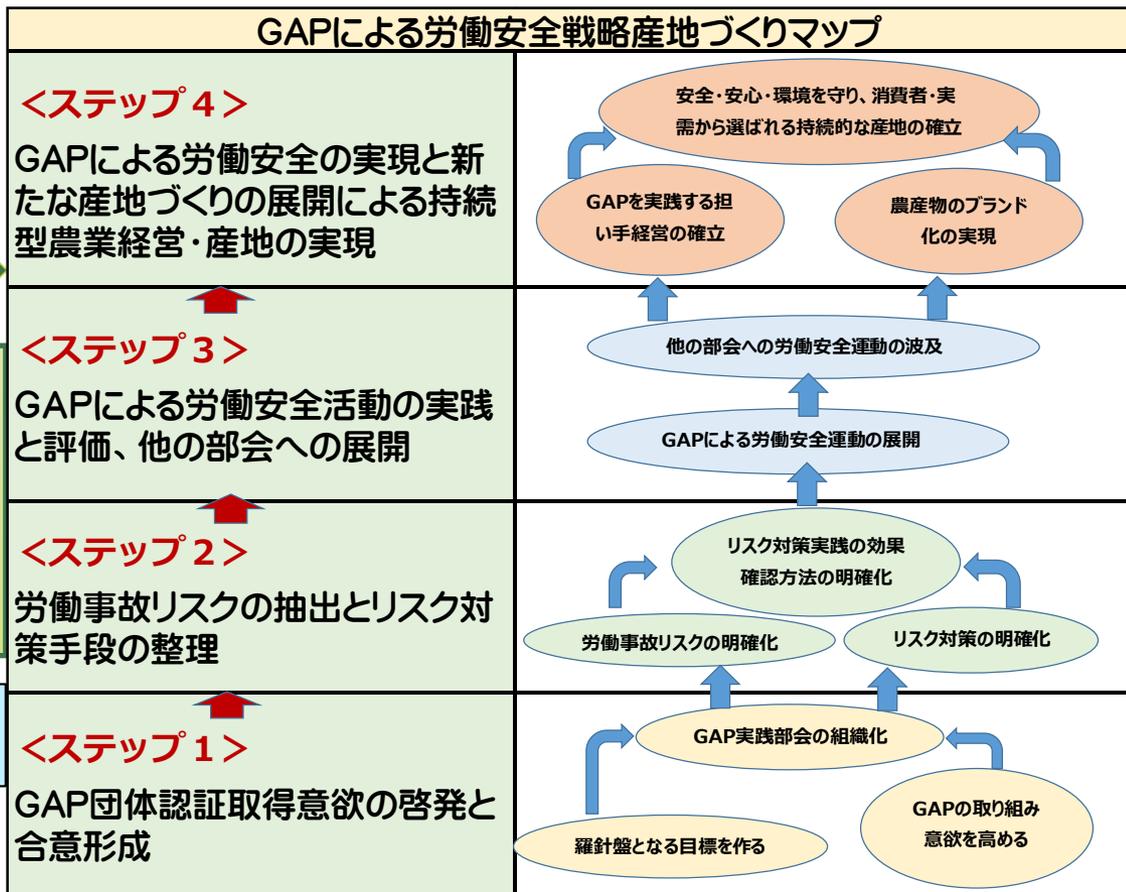
3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

労働安全におけるGAPのバランススコアカード(BSC)モデル



GAPによる労働安全運動に変換

出所：バランススコアカードナビ
<https://www.itl-net.com/bsc/bsc3.html>



3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

労働安全戦略に関するBSCモデル

産地戦略マップ	戦略目標	目標達成指標	アクションプラン
<p><ステップ4></p> <p>GAPによる労働安全の実現と新たな産地づくりの展開による持続型農業経営・産地の実現</p>	<p><労働事故ゼロ、地域の生産・生活環境を守り安全な農産物を持続的に生産する地域農業の実現></p> <p><市場、実需者、販売組織、消費者等、多様な顧客との継続・安定取引ができる産地の実現></p> <p><多様な顧客に責任をもって農産物を供給できる経営者の確保></p>	<p><目標達成指標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) GAP団体認証の持続的取得 2) 労働事故ゼロ 3) 安定取引先の確保 (〇組織) 4) GAP認証取得の有利性の実現(選ばれる産地となる)。産地ブランドの確立 5) GAPの取り組みを自主的に実施できる経営者の確保(〇人) 	<p><アクションの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 審査・登録料の低減方策の検討 ◆ GAPの取り組みによる農産物の品質向上(ブランド条件の設定)による選ばれる産地の実現 ◆ 産地の取り組みのPR活動の展開 ◆ GAP実践優良経営の表彰 ◆ 労働事故ゼロ部会、労災保険加入優良部会を表彰
<p><ステップ3></p> <p>GAPによる労働安全活動の実践と評価、他の部会への展開</p>	<p><GAPを基本とした持続的労働安全運動の展開と取り組みの拡大></p> <p><取り組みを他の部会にも拡大する></p>	<p><目標達成評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 継続的な認証取得と労働事故防止・軽減の実現 <ol style="list-style-type: none"> 1位: 死亡事故ゼロ 2位: 毎年、事故件数を半減させる 3位: 労災保険加入促進 <ul style="list-style-type: none"> ◆ GAP団体認証取得を目指す部会名(〇〇部会、〇〇部会等) 	<p><アクションの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 参加農家の巡回指導(年〇回) ◆ 労働安全講習会の開催(年〇回) ◆ ヒヤリハット発表会(半年1回)ー労働安全点検運動に合わせて実施 ◆ 労災保険加入説明会開催(年2回) ◆ GAP実践を目指す部会への説明と説得(随時行う)
<p><ステップ2></p> <p>労働事故リスクの抽出とリスク対策手段の整理</p>	<p><参加農場ごとに労働事故リスクを明確にする></p> <p><事故の発生頻度と重篤度を明確にする></p> <p><リスク対策を明らかにする></p> <p><リスク対策実施の確認方法の明確化></p>	<p><目標達成評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 参加農場ごとのリスクと発生頻度のリストアップ(全農場) ◆ 事故発生の重篤度評価(全事故) ◆ 事故の防止・軽減対策のリストアップと実施課題を整理(すべての事故対策) ◆ 労働事故防止・軽減対策のマネジメントマニュアル開発 	<p><アクションの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ワークショップ、ブレインストーミング(開催時期と回数) ◆ TN法によるリスクの特性評価 ◆ TN法による事故防止・軽減対策の有効性評価 ◆ TN法分析結果に基づく労働事故防止・軽減対策のマネジメントマニュアルの作成(事務局) ◆ 部会員による承認
<p><ステップ1></p> <p>GAP団体認証取得意欲の啓発と合意形成</p>	<p><産地づくり目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 羅針盤となる目標を作る ◆ 部会員の意欲向上戦略 ◆ GAPの取り組み意欲を高める <p><GAP団体認証組織づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ GAP団体認証に取り組む部会を組織化する 	<p><目標達成評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 部会員のGAPの認知率(%) ◆ GAP参加希望農家率(〇%) ◆ GAP団体認証に取り組む部会数 <p>部会1:()</p> <p>部会2:()</p> <p>部会3:()</p>	<p><アクションの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 説明会の開催(開催時期と回数) ◆ GAP取り組みの先進地視察 ◆ 部会長の説得 ◆ 部会員の意思確認 ◆ 合意を得た部会員で取り組むか、全員参加で取り組むかの決定

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o1 意欲啓発と合意形成 - 1

GAP団体認証による労働安全実現戦略(ステップ1)

産地戦略マップ	戦略目標	目標達成指標	アクションプラン
<p><ステップ1> GAP団体認証取得意欲の啓発と合意形成</p>	<p><産地づくり目標> ◆羅針盤となる目標を作る <部会員の意欲向上戦略> ◆GAPの取り組み意欲を高める <GAP団体認証組織づくり> ◆GAP団体認証に取り組む部会を組織化する</p>	<p><目標達成評価指標> ◆部会員のGAPの認知率(%)、 ◆GAP参加希望農家率(O%) ◆GAP団体認証に取り組む部会数 部会1:() 部会2:() 部会3:()</p>	<p><アクションの内容> ◆説明会の開催(開催時期と回数) ◆GAP取り組みの先進地視察 ◆部会長の説得 ◆部会員の意思確認 ◆合意を得た部会員で取り組むか、全員参加で取り組むかの決定</p>

第1ステップ-GAP団体認証チャレンジへの合意形成

この段階は、団体認証取得に取り組むための部会参加農家の参加に関する**合意形成の取得**に関わる取り組みである。ここでは、次のような行動を展開することが重要である。

- **GAP認証取得の意義**の説明(生産者のメリット、産地としてのメリット、何を目標にするか、を明確に伝える)
- 生産者の**不安や問題意識の把握**とその解消
- 取り組みに当たっての関係機関(JAと普及等)と生産者の**役割分担の明確化による過剰な負担意識の軽減**
- 現在および将来の**コスト負担の見通し**の説明

BSCステップ^o1 意欲啓発と合意形成 - 2

第1ステップー合意形成実現のポイント

< 思いの共有 >

持続的な産地づくりに対する思いを共有できる**産地ビジョン**を描く。この思いが強く、皆に共有されていれば、その後の活動の大きな原動力になる。特に**世代間での共有**が大切。

< 思いを共有する方法 >

- ◆基本は**徹底的な話し合い**。納得いくまで話し合いを続け、生産者の不安を解消する。
- ◆**何度でも説明会を開く**。多様な意見がでるような場にするのが大切。
- ◆必要に応じて実践している他の地域の部会の取り組みを**視察**する。

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o1 意欲啓発と合意形成 －推進体制の整備－ 3

<団体認証推進事務局と部会長の役割り>

- ◆事務局はJA職員を中心に構成
場合によっては普及組織も入るのが有効
- ◆まず行うのは、推進事務局の目的意識の統一。
産地維持の危機感、産地の将来像と担い手像の明確化が重要。部会長との意思統一を図る。
- ◆事務局員、部会長はGAP推進のリーダーとして合意実現のために行動するが、リーダーに求められるのは、「我慢強さ」「絶対に怒らない」「人の意見を粘り強く聞ける」「問題が発生した場合に調整できる」「ポジティブ思考」「明るさ」。
- ◆事務局、部会長を支えるGAP実践の中核となる農家を早く探すことが大切。
- ◆事務局は、指導ではなくて支援するという意識が大切。部会農家のチャレンジを支えるという意識が大切。

<話し合いを推進する体制とは>

- ◆基本は、部会員に情報がスムーズに流れ体制をつくる。正しい判断は、正しい情報から。
- ◆だれでも、自由に遠慮無く意見が言える体制をつくる。小集団、気のあった仲間集団を基本に活動を展開する。
- ◆小集団の意見を事務局が常に集約できる仕組みを作る。小集団の話し合いには、必ず事務局員が出席する。
- ◆必要に応じて普及機関も参加できるようにする。

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o1 意欲啓発と合意形成 －目標と理念・哲学をつくる－ 4

<GAP実践の目標づくり>

GAP実践による産地づくりの目標をつくりあげる必要がある。

- ◆**GAP実践の理念・哲学づくり**－GAP実践に取り組む人々の意識を統一し、活動の目指す方向を明確に伝達するものである。困難に遭遇した場合の原点と活動の継続性の拠り所となる。
- ◆**何を変革（イノベーション）するのか？**
 - ・GAPによって何を変革するのか？
将来の産地づくりの方向、経営の未来像、担い手の将来像から検討する。
- ◆生産者の労働安全、地域の環境保全、生産物の安全性の目標を作る
- ◆**目標は具体的な数字**で示す。
目標設定では、目標達成時期のバランス、目標間のトレードオフ、参加者間のトレードオフ関係の把握が大切。

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ1 意欲啓発と合意形成 – 5 – 目指す目的・目標・理念・キャッチフレーズの決定

- ◆ 地域づくりで大切なのは目的・目標。目的は最終的に目指す方向、目標は目的を達成するために設定した目印。
実践的な良い目的・目標を創るためのポイント。
 1. 本心から望むものであること
 2. 追及する価値があるもの
 3. 自分たちの真のニーズを知る
 4. 目的は大きく、目標は実践的に
 5. 目標はできるだけ数字などで表す
 6. 目標はアクションプランと同時に作る
- ◆ 理念は、「これはこうであってほしい、こうあるべきだ」という理想のこと。産地の理想的な姿を表現する事が大切。
- ◆ キャッチフレーズは、理念をだれにでもわかりやすく一言で伝えるもの。

BSCステップ^o1 意欲啓発と合意形成 －実践事例－6

第1ステップー実践事例での合意形成実現上の工夫 (JAおおいた)

- ◆**高齢者に如何にわかりやすく**伝えるか（マニュアル、記帳方法など）－図の多用、文字を大きく、生産者が慣れたやり方、農場の整理整頓から始める
- ◆**審査認証費用の抑制**－一部会単位の団体を統一して団体事務局の運営の効率化（審査費用を4万円から2万円に削減）
- ◆**GAPのマイナス印象**（難しそう、面倒くさそう、お金がかかりそう）の払拭
- ◆**GAPのプラス印象**（有利販売ができそう、農場管理に役立つ）を高める

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o2 リスク評価・対策の整理 - 1

GAP団体認証による労働安全実現戦略(ステップ2)

産地戦略マップ	戦略目標	目標達成指標	アクションプラン
<p><ステップ2> 労働事故リスクの抽出 とリスク対策手段の整理</p>	<p><参加農場ごとに労働事故リスクを明確にする> <事故の発生頻度と重篤度を明確にする> <リスク対策を明らかにする> <リスク対策実施の確認方法の明確化></p>	<p><目標達成評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆参加農場ごとのリスクと発生頻度のリストアップ(全農場) ◆事故発生の重篤度評価(全事故) ◆事故の防止・軽減対策のリストアップと実施課題を整理(すべての事故対策) ◆労働事故防止・軽減対策のマネジメントマニュアル開発 	<p><アクションの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ワークショップ、ブレインストーミング(開催時期と回数) ◆TN法によるリスクの特性評価 ◆TN法による事故防止・軽減対策の有効性評価 ◆TN法分析結果に基づく労働事故防止・軽減対策のマネジメントマニュアルの作成(事務局) ◆部会員による承認



BSCステップ^o2 リスク評価・リスク対策の整理 – 2

- ◆取り組みの合意形成ができれば、次に労働安全、地域環境保全、農産物の安全の実現という視点から、農場のリスクを徹底的に洗い出す。
- ◆JGAPの管理点は、「作業者の労働安全（必須）」「危険な作業に従事する作業員（重要）」「労働事故発生時の対応手順（重要）」「事故への備え（重要）」「労働災害に関する備え（強制加入）（必須）」「労働災害に関する備え（任意加入）（努力）」
- ◆この管理点について示されている適合基準は、一般的で共通のものであり、この個々の農業者ごとに異なる。この管理点を最低の条件として満足させながら、自らの農場の実効性のある労働安全対策を樹立する必要がある。
- ◆そのためには、まず作業舎内、圃場内、道路などの移動におけるリスク、トラクタなどの農業機械操作のリスク、作業におけるリスクを徹底的に洗い出し、その発生確率、発生した場合の事故の重篤度を評価することが最重要である。
- ◆この作業は事務局がコーディネートしながら部会の全メンバーが参加して実施するのが望ましい。

BSCステップ^o2 事故リスク・リスク対策の整理 – 3 (リスク評価の手順)

◆以下のような実施手順が望ましい。

- 1) ブレーンストーミング、フィリップス66法などを用いて、**ワークショップ形式でリスクを抽出**する（参加人数が多い場合はグループ分けを行い、参加者が主体的に参加できるようにする。
- 2) 抽出されたリスクについて、その**防止・軽減対策を整理**する。
- 3) 抽出された**リスクの特性**（発生可能性、発生した場合の事故の深刻度、評価者の農場で発生する確率）を評価する。
- 4) **事故防止・被害軽減対策の有効性**（対策の実施効果、対策実施の容易性、対策実施の費用）を評価する。



3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o2 事故リスク・リスク対策の整理 - 4 (リスク評価票)

部会メンバーが抽出した農業労働安全に関わるリスクの評価票

評価者氏名() 年齢(歳) 性別 男性 女性 農場面積(アール)

部会で扱う作物の生産面積(アール)

想定される以下の事故について、その発生可能性、発生した場合の事故の深刻さ、あなたの農場で発生する確率を5段階で評価してください。評価基準(5=とても大きい 4=やや大きい 3=普通 2=やや小さい 1=小さい)を○で囲んでください。

	想定される事故	リスクの発生可能性					発生した場合の事故の深刻度					あなたの農場で発生する確率				
1	脚立などに乗った高所作業	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2	トラクタによる事故	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3	耕耘機による事故	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4	コンバインの転倒	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5	コンバインのバック時の事故、刈取部への挟まれ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6	トラクタやトレーラの荷物の積下し時の事故	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7	草刈り時の事故	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7	農業機械走行時の傾斜や段差での事故	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8	農業機械道路走行時の事故	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o2 事故リスク・リスク対策の整理－5 (リスク対策評価票)

部会メンバーが抽出した農業労働安全に関わるリスク防止・軽減対策の評価票

評価者氏名() 年齢(歳) 性別 男性 女性 農場面積(アール)
部会で扱う作物の生産面積(アール)

皆様が提案された事故のリスク防止・軽減対策について、対策の実施効果、対策実施の容易性、対策実施の費用を5段階で評価してください。評価基準(5=とても大きい 4=やや大きい 3=普通 2=やや小さい 1=小さい)を○で囲んでください。

	提案された事故対策	対策の実施効果	対策実施の容易性	対策実施の費用
1	危険作業は必ず複数で行う	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
2	危険個所を把握して安全対策を施す	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
3	誤った機械操作をしないように注意事項を機械に貼り付ける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
4	転倒危険アラームを機械に取付ける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
5	機械に挟まった異物を取り除くときは、機械を止めて行う	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
6	草刈り事故防止用具の装備(ゴーグル、手袋、安全靴)	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
7	複数で行う草刈り作業は離れて行うように場所を指定する	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
8	交通法規を守った運転を心がける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
9	事故が起こりやすい時間帯の危険作業は避ける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o2 事故リスク・リスク対策の整理 – 6 実践を支援する手法 (TN法)

TN法「第1ステップ」の流れ

- 1 導入 (情報の共有、アイスブレイク)
- 2 第1アイデアをカードに記入
- 3 第1アイデアカードを提示、グルーピング
- 4 第2アイデアをカードに記入
- 5 第2アイデアカードを提示、グルーピング
- 6 アイデアの修正と補足
- 7 アイデア整理、評価票の作成・準備
- 8 アイデア評価
- 9 アイデア評価結果の分析
- 10 追加アイデアの募集 (フィードバック)
- 11 分析結果をもとに具体的方策を検討
ビジョン、活動プランづくりへ



パソコンソフト
●●●●●「TN法第1ステップ集計プログラム」を用いた評価分析例●●●●●

パソコンソフト「TN法第1ステップ集計プログラム」では、評価項目の総合評価ランキングはもちろん、評価項目ごと、各評価基準ごとのランキング、さらに属性項目として年齢や性別、職業 (専業主婦、兼業主婦、派遣業者など) のデータを入力しておけば、年代別や男女別ごとにランキング・分析ができます。またグループ区分による「平均値の差の検定」、グループや評価基準ごとの評価の傾向のグラフ化など、テーマや目的によってさまざまな観点からの評価分析が可能です。

評価項目のランキング例 【〇〇地区活性化のアイデア】

総合評価ランキング 点数は平均評価時点

順位	点数	No.	評価項目
1位	3.47	10	高齢者がくつろぎやすい合宿の導入
2位	3.37	3	駅前で憩いと交流する
3位	3.37	6	トイレを充実させる
4位	3.30	4	若い世代の活動を行う
5位	3.00	1	駐車場を確保する
6位	2.93	5	子供習字で子どもをよぶ
7位	2.90	2	若者の憩いの場をつくる
8位	2.87	8	高齢者を視覚的でアトラクティブ
9位	2.83	7	若い子に憩いを集めさせる
10位	2.60	9	全員の憩いで憩いの場をつくる

平均値の差の検定

順位	平均値	GP1	GP2	評価項目
1	3.30	2.98	3.20	専業主婦を誘致する
2	3.25	2.94	2.83	若者の憩いの場をつくる
3	3.09	3.00	3.09	駅前で憩いと交流する
4	3.05	3.28	3.01	若い世代の活動を行う
5	3.00	3.31	3.40	子供習字で子どもをよぶ
6	2.98	3.08	3.00	トイレを充実させる
7	2.92	3.00	2.87	若い子に憩いを集めさせる
8	2.87	2.94	2.47	高齢者を視覚的でアトラクティブ
9	2.84	3.17	3.10	高齢者を視覚的でアトラクティブ
10	2.58	2.67	2.57	高齢者がくつろぎやすい合宿の導入

評価基準：総合評価
評価基準の属性
(1) 年齢の区分 (2) 性別の区分 (3) 職業の区分

評価基準：総合評価
属性区分：(1) 年齢
GP (グループ) 1—若者 (4人)
GP (グループ) 2—ベテラン世代者 (6人)

「TN法第1ステップ操作マニュアル」HTML TN法開発グループ 東京 Yamanashi 県庁 高橋 幸雄 伊藤 大進氏作成 より

「TN法第1ステップ集計プログラム」をはじめとするTN法パソコンソフト (操作マニュアル) は、東京農業大学の門田研究室 (http://www.e-tn.jp/) のホームページからダウンロードが可能です。
お問い合わせ先: 伊藤 大進氏 <http://www.e-tn.jp/> (0265) 311-1111

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o2 事故リスク・リスク対策の整理 – 7 事故防止活動の体系的整理

- ◆ 農作業事故のリスクと対策を体系的に整理して一覧図にして、部会員に配布し農場内に掲示するのが効果的。
- ◆ 目的、大分類、中分類、事故防止対策、活動主体というように分類して整理しておくが効果的。



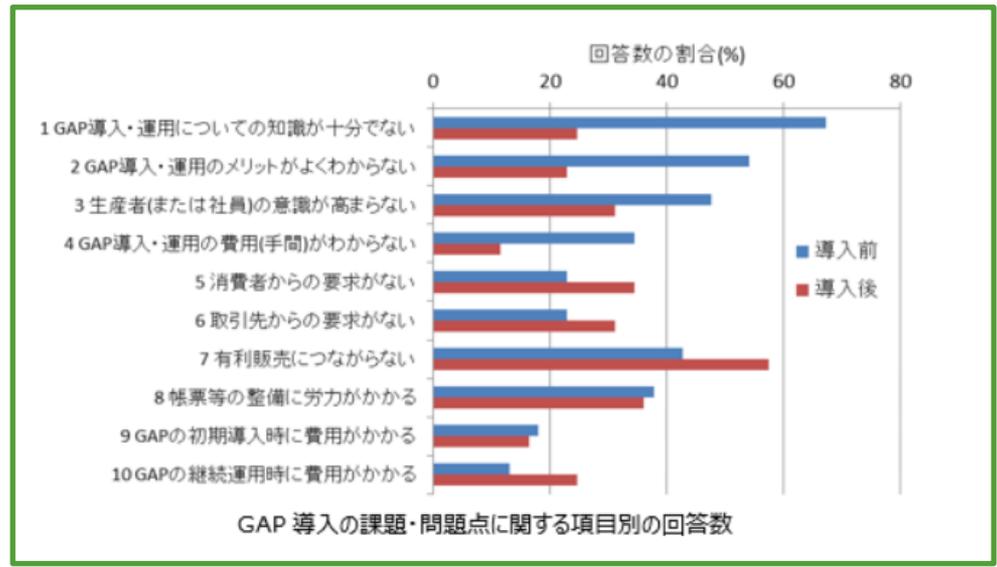
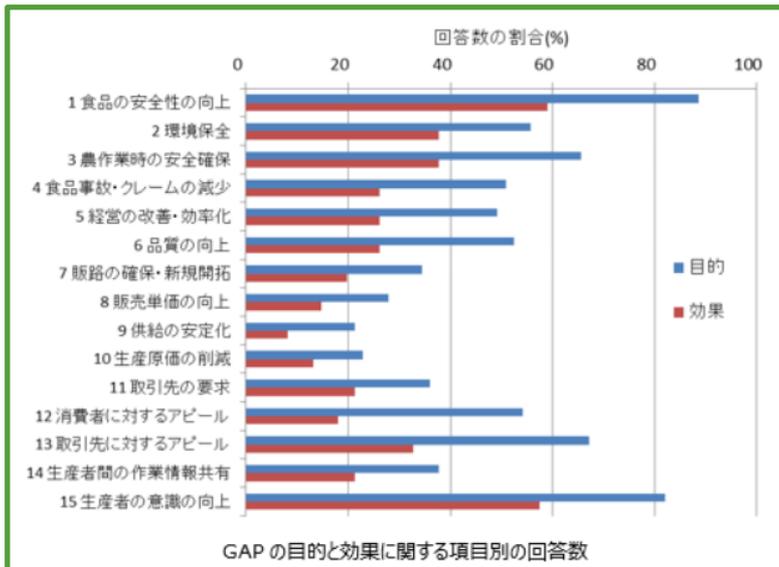
キャッチフレーズ	大分類	中分類	事故防止ためにやること
家族のあな顔たの産地の安全の発展	作業者の労働安全を確保する	危険箇所はわかっていますか	◆ 圃場の危険箇所のチェックと周知 ◆ 作業施設の危険箇所のチェックと周知 ◆ 危険箇所の修理・補修など
		農機具の安全な操作はわかっていますか	◆ 農機の安全利用講習会への参加 ◆ 操作マニュアルの常備
		事故やけがの防止対策をしていますか	◆ 草刈機の安全な使用方法の徹底 ◆ トラクタ、コンバインの安全な使用方法の徹底 ◆ 施設内の整理・整頓
	危険な作業をする人を守る	安全教育・訓練を実施しましたか	◆ 関係者を安全研修・講習会に参加させる ◆ 職場内の指導
		必要な資格は取得していますか	◆ 運転免許を取得させる ◆ 法令に定められた講習会に参加させる
		未経験者、高齢者等の作業に配慮していますか	◆ 高齢者への配慮 ◆ 福祉施設からの作業員への配慮 ◆ 女性や弱者への配慮
		安全な服装・装備を用意していますか	◆ 動きやすい作業服の準備 ◆ ゴーグル、安全靴の準備
	事故が発生した時に適切な対応をする	事故発生時の連絡網はできていますか	◆ 病院、救急車などの連絡網 ◆ 親族・友人などの連絡網 ◆ 保険会社などの連絡網
		正しい応急措置をできますか	◆ 応急措置の訓練 ◆ 応急措置に必要な用具の準備
	事故への備えは大丈夫か	救急箱は用意されていますか	◆ 救急箱の設置場所の周知 ◆ 必要な医薬品の用意と補充
		労災保険に加入していますか	◆ 労災保険への加入 ◆ 任意保険への加入 ◆ その他の補償対策の用意

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ°3 労働安全運動の実践と評価 – 1 GAP取り組みの持続性実現の課題

GAP団体認証による労働安全実現戦略(ステップ3)

産地戦略マップ	戦略目標	目標達成指標	アクションプラン
<p><ステップ°3> GAPによる労働安全活動の実践と評価、他の部会への展開</p>	<p><GAPを基本とした持続的労働安全運動の展開と取り組みの拡大> <取り組みを他の部会にも拡大する></p>	<p><目標達成評価指標> ◆継続的な認証取得と労働事故防止・軽減の実現 1位: 死亡事故ゼロ 2位: 毎年、事故件数を半減させる 3位: 労災保険加入促進 ◆GAP団体認証取得を目指す部会名(〇〇部会、〇〇部会等)</p>	<p><アクションの内容> ◆参加農家の巡回指導(年〇回) ◆労働安全講習会の開催(年〇回) ◆ヒヤリハット発表会(半年1回)ー労働安全点検運動に合わせて実施 ◆労災保険加入説明会開催(年2回) ◆GAP実践を目指す部会への説明と説得(随時行う)</p>



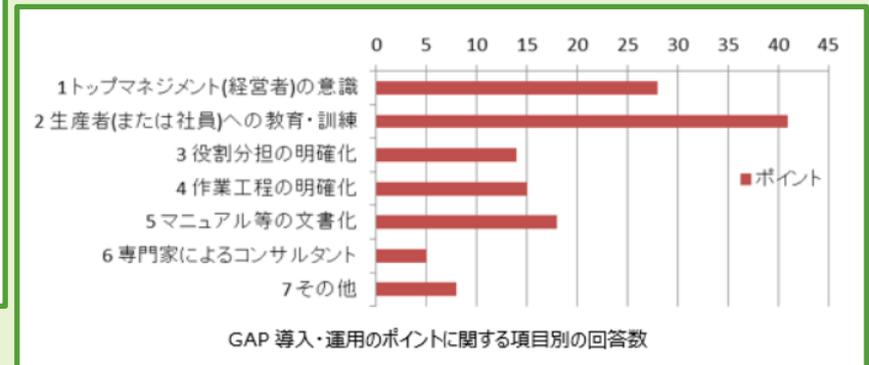
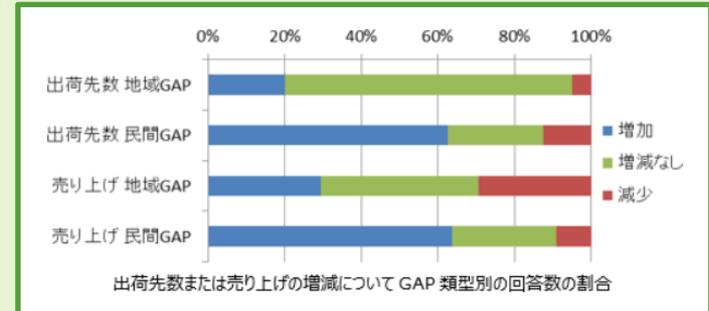
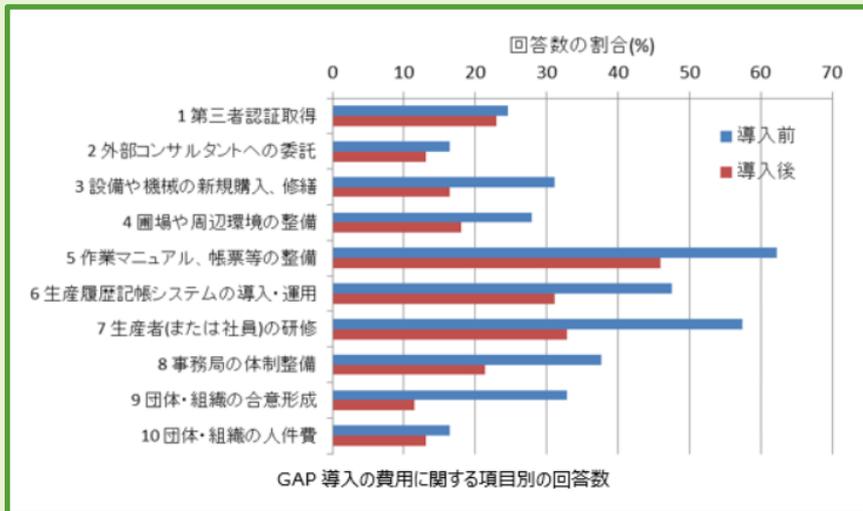
出所：農業ナビゲーション研究所：GAPの導入効果等に関する全国アンケート調査報告による全国63団体の分析結果より、http://www.nnavi.org/gap_jirei/zenkoku/index.htm

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o3 労働安全運動の実践と評価 - 2 GAP持続性のポイントは

◆GAPの持続性を確保するために実践すべきことは

- 1) 認識できない効果を如何に認識できるようにするか
- 2) GAPの必要性とメリットを如何に認識できるか
- 3) 費用・労力の負担を如何に減らすか
- 4) 社員の意識向上を如何に実現するか



3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o3 労働安全運動の実践と評価－3 GAP持続の取り組み事例

◆JAおおいたGAP研究会では、農作業安全の取り組みとして毎年定期的に「GAPで取り組む農作業安全講習」を実施。専門家による講演だけにとどまらず、地元消防署による「救命救急講習」。大分県警による「農作業に伴う事故防止」並びに「労災保険」の講習を実施し、県内のGAP普及の重要なツールとなっている。

◆団体認証費用を安くする試み

- 1) JAおおいたではJGAP認証を単独認証80,000円/年から部会ごとの認証40,000/年、3部会をまとめて20,000円/年、GAP研究会では平成30年度は会費2,000円、審査費用15,000円まで下げている。
- 2) 鹿児島農林水産物認証制度（K-GAP）では、個人5,400円、団体1,620円×戸数で実施

取ってよかった GAP 認証!!

JAおおいたGAP研究会（大分県）

販路拡大を目指し、66人の生産者が集まって、
3品目（かんきつ、みつば、いちご）で団体認証を取得！

特色

- ・導入時には文書等を使用せず目的や必要性を説明し、合意形成&実践段階でわかりやすいマニュアルを使用し、生産者の負担軽減
- ・団体認証によって、一人当たりの取得費用が低減

効果

販路拡大につながり、
収益が向上

農作業事故
が減少



<https://jaoita.or.jp/agriculture/farming>

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o4 新たな産地と持続的農業経営の実現 – 1 選ばれるブランド産地・経営となるために

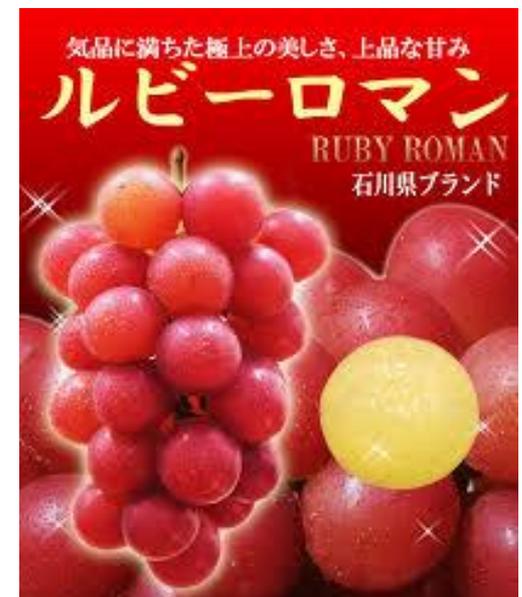
GAP団体認証による労働安全実現戦略(ステップ4)

産地戦略マップ	戦略目標	目標達成指標	アクションプラン
<p><ステップ4></p> <p>GAPによる労働安全の実現と新たな産地づくりの展開による持続型農業経営、産地の実現</p>	<p><労働事故ゼロ、地域の生産・生活環境を守り安全な農産物を持続的に生産する地域農業の実現></p> <p>></p> <p><市場、実需者、販売組織、消費者等、多様な顧客との継続・安定取引ができる産地の実現></p> <p><多様な顧客に責任をもって農産物を供給できる経営者の確保></p>	<p><目標達成指標></p> <p>1) GAP団体認証の持続的取得 2) 労働事故ゼロ 3) 安定取引先の確保 (〇組織) 4) GAP認証取得の有利性の実現(選ばれる産地となる)。産地ブランドの確立 5) GAPの取り組みを自主的に実施できる経営者の確保(〇人)</p>	<p><アクションの内容></p> <p>◆ 審査・登録料の低減方策の検討 ◆ GAPの取り組みによる農産物の品質向上(ブランド条件の設定)による選ばれる産地の実現 ◆ 産地の取り組みのPR活動の展開 ◆ GAP実践優良経営の表彰 ◆ 労働事故ゼロ部会、労災保険加入優良部会を表彰</p>

◆ **ブランド**とは、生活者が商品・サービスの違いを認識している状態。商品やサービスの差別化を構成するのは、名称、言葉、記号、シンボル、デザイン、あるいはそれらを組み合わせたものと言われているが、農産物では味・品質・香りなどが重要な要素となる。

◆ **ブランド価値**とは、生活者が対価を払っても得たい価値

◆ **ブランディング**とは、ブランドを顧客に認識させるための活動



3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^④ 新たな産地と持続的農業経営の実現－2 選ばれるブランド産地・経営となるために

- ◆GAPの取得が農産物価格の上昇に直接結びつくことはない。しかし、多くの労力をかけてGAP認証を取得した生産者が取引価格の上昇を期待するのは無理が無いことである。
- ◆むしろ、産地ブランドづくり、選ばれる産地づくりを積極的に展開すべきである。以下、こうした取り組みの実践事例を紹介する。

(生産局長賞)

JAおおいたGAP研究会

～団体認証の強みを活かし販路拡大・有利販売を実現～

<基本情報>

所在地:大分県大分市
設立:平成27年9月
構成戸数:78戸

<経営概要>

経営面積:99.7ha(柑橘:7.9ha,みつば:5.6ha,
いちご:7.2ha,大葉:12.4ha,
白ねぎ:58.9ha,七草:7.7ha)

販売先:大手量販店など

認証品目:柑橘(ぼんかん、不知火)、みつば、
いちご、大葉、白ねぎ、七草



【従来の2段詰めパック】



【1段詰めパック】

<GAPの取組状況>

実践段階で分かりやすいマニュアルを使用し、生産者の負担を軽減

平成23年6月 残留農薬事故からの立ち直りと販路拡大のため、
認証に向けた準備開始

平成24年10月 いちご部会でJGAP認証取得

平成26年2月 みつば部会、柑橘部会でそれぞれJGAP認証取得

平成28年2月 平成27年に3団体を統合し、「JAおおいたGAP
研究会」としてJGAP認証取得

平成30年2月 3品目(大葉、白ねぎ、七草)追加し、JGAP認証
継続(構成戸数:66戸→78戸)

<団体認証による効果>

【販路拡大】

GAP認証を取得し団体として取引先と協議することにより、
○高単価商品としての販路拡大(糖度等の品質基準も有り)
○西日本全体へ販売エリアが拡大

【有利販売】

出荷規格の交渉もより良い条件で進めることが可能となり、
・いちごについては、2段詰めのパック(7規格)から1段詰め
のバックへの規格(2規格)に簡素化したことで生産者のバック詰
めの作業効率が2倍以上に効率化
(H24年度:7,840g/時間→H25年度:15,000g/時間)
・柑橘については、摘果が必要な2L～3Lサイズの規格を摘果
が不要な小玉階級への変更が可能となり、H25年度より生産
者の摘果作業が省力化

<構成する1経営体(生産法人)の取組効果>

GAPに取組み、蓄積したデータの分析や経営改善を持続的
に行ってきたことにより、

○収益を約2倍に拡大

9.2万円/10a(H21年度)→19.6万円/10a(H28年度)

○肥料・農薬費を約6割削減

4.9万円/10a(H21年度)→2.8万円/10a(H28年度)

<団体事務局の運営効率化>

・いちご、みつば、柑橘の3団体を統一して団体認証を取得することにより、
団体事務局の審査費用は45万円→15万円、審査対象
農場数の削減により農場毎に負担する審査費用は約4万円→2万円に削減。
事務局の審査対応に係る作業時間も削減

九州農政局管内の
GAP取組事例
(国際水準GAPの取組)

平成30年12月
九州農政局

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o4 新たな産地と持続的農業経営の実現 - 3 選ばれるブランド産地・経営となるために

GAPの取組⑤
(団体認証)

JAふくおか八女かんきつ部会GAP研究会

〈問い合わせ先〉JAふくおか八女 園芸指導部 園芸指導課 0943-23-1163

JGAP

みかん

<基本情報>

所在地：福岡県八女市

構成員：13名

<農場概要>

栽培面積：みかん 42ha (内訳：極早生15.5ha、早生10.3ha、普通15.1ha、中晩かん1.1ha)

<経営の理念>

「安全・安心・甘い八女みかんを消費者に届けよう」

JGAP団体認証取得申請メンバー！
(撮影時に4人のメンバーが不在でした。)



<GAPの取得のきっかけ>

取引先の量販店からの取得依頼



JGAP青果物2010
2016年 認証取得

<GAP認証取得で苦労したこと>

■生産履歴の管理

JGAPの団体認証を青年部で申請しており、農薬保管や倉庫内の整理整頓について父親との認識違い。(要、不要の線引き)

■労働環境の整備 (ハード面の設置に係る導入経費等)

安全性を確保するための、資材導入や
証明書の確保に関わる経費増大。

■リスク評価 (食品安全、農作業安全等)

各農場におけるリスク評価において、各構成員が自覚しているものの、それを文書化することに慣れていない。



農薬の保管状況のチェック

<GAP認証取得による効果や改善されたこと>

■取引先の信頼確保

⇒今まで以上に産地としての信頼確保

⇒より安定した生産・販売数量

■従業員の意識の変化

⇒経営者としての自覚の向上

⇒安全な農産物の生産

■労働環境の整備

⇒農作業事故防止の意識向上



安全・安心・甘い八女みかんを消費者の
皆さんへお届けします。



GAP研究会
持丸会長

九州農政局管内の
GAP取組事例
(国際水準GAPの取組)

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ^o4 新たな産地と持続的農業経営の実現－4 選ばれるブランド産地・経営となるために

(生産局長賞)

JA北魚沼GAP部会

JGAP
(H25.8認証取得)

～GAPに取り組みやすい環境を構築し、産地形成！～

<基本情報>

所在地:新潟県魚沼市
代表:荻沢 庄一郎
構成員:16農場

<経営概要>

経営面積:188ha
主要作物:水稲
総売上額:約10,000万円
認証品目:米



JA北魚沼GAP部会

<経営改善>

誰でもGAPに取り組みやすい環境を整え、組合員の意識向上を図りつつ、産地形成を推進

- ① 団体事務局と農場との役割分担において、農場の「管理点と適合基準」を団体事務局と農場で分担を行い、農場の負担を軽減
- ② 分かりやすいマニュアルを作成すると共に、各種研修会を開催し、誰もがGAPに取り組みやすい環境を構築
- ③ GAPの認知度向上に伴い、GAP米の販路が拡大し販売数量はGAP取組当初より約8割増加
(H25:198t → H29:348t)
- ④ 労働時間の平準化を目指し、コシヒカリの他に、作期の異なるこしいぶき、新之助を導入することによる作期分散を推進、生産物の品質も向上
なお、新之助の栽培は、「GAP認証取得農場」に限定し、ブランド化・産地化を推進



<GAPの取組状況>

組合員における環境保全、生産者の安全意識向上に役立つ手法として、GAP認証取得に取り組む、作業の効率化を進めるとともに、新品種の産地化・ブランド化を推進

平成24年12月 JA北魚沼GAP部会発足(認証取得農場数:17)
平成25年8月 米でJGAP認証取得

<団体事務局の運営効率化>

GAPの指導体制強化のためJGAPの指導員を育成しつつ、新に内部監査員を育成し、これまで、外部委託していた内部監査の経費を削減

3.GAPによる労働安全実現活動を支える戦略的手法

BSCステップ4 新たな産地と持続的農業経営の実現 - 5 選ばれるブランド産地・経営となるために

サンシャイントマト 出荷協議会

GAP部門

東北農政局長賞

代表者名：会長 元木 寛
所在地：福島県いわき市
面積：6.6ha
構成員：4社
栽培品目：トマト、ミニトマト
認証：JGAP（平成29年）

取組の紹介

【生産工程管理の改善に向けた取組】

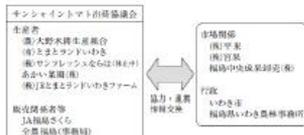
- 協議会構成員4社（農）大野水耕生産組合、（有）とまとランドいわき、あかい菜園（株）、（株）JRとまとランドいわきファーム）は、経営陣またはそれに準ずる人材をGAP指導員資格者として養成し、それぞれがJGAP認証を取得した。
また、GAPの手法について、互いを参考にし、場合によっては自分の農場に合わせた変更や改善を加えている。

【経営の改善に向けた取組とその効果】

- リスク管理を基本とした考え方でルールが統一されたことにより、従業員の認識も統一され、ルールに沿った内容を従業員が自発的に行うようになった。
また、責任者が明確に位置づけられたことで、現場からの報告や問い合わせ等への対応や連絡がスムーズに行われるようになった。

【地域の内外への波及に向けた取組】

- GAPに関する視察や取材も県内外から多数あり、いわき地域のGAPへの取り組みや風評払拭のために重要な情報発信の場となっている。TV局や新聞社への取材対応をはじめ、消費者向けのキャンペーンに協力し、JGAPマーク入り農産物を配布するなど、消費者の理解促進にも貢献している。



サンシャイントマト出荷協議会組織図



高所作業台車に取り付けた落下防止ネットと防風板



オランダ大使館参事官によるGAP農場視察（平成30年2月18日あかい菜園（株））



第4回 ホテル廣巳屋 料理コンテスト 和食部門最優秀作品 テーマ食材「サンシャイントマト」

GAP部門

東北農政局長賞

有限会社 鈴木農産企画

代表者名：鈴木孝征
所在地：山形県鶴岡市
面積：20.5ha
構成員：5名
栽培品目：水稲
認証：GLOBALG. A. P.、ASTAGAP（平成29年）

取組の紹介

【生産工程管理の改善に向けた取組】

- 労働安全の取組として、乗用機械使用時におけるヘルメットの着用、農薬散布時におけるゴーグル・マスクの着用等を義務付けている。
また、作業時の服装や装備、ほ場の危険箇所を掲示し、従業員は常に確認している。



機械乗用時にはヘルメットを着用

【生産効率性の向上に向けた取組とその効果】

- 平成30年度に種籾の厚播きの技術を導入した結果、6名で行っていた育苗の作業が3名で済むようになり、労働力及び育苗箱の運搬コストの削減につながった。

【経営の改善に向けた取組とその効果】

- 国内の販路開拓において、GAP認証の取得を積極的にPRしている。
また、GLOBALG. A. P. 認証の取得を契機に、今後は米の輸出も視野に入れた販路拡大を図っていくこととしている。



ほ場の危険箇所を掲示

【地域の内外への波及に向けた取組】

- GAPや有機栽培・特別栽培を通じて安全安心な米作りを実践し、地域の農業者から高い評価を得てきたことから、離農した農業者から農地を任せられるようになり、地域農業の担い手として欠かせない存在となっている。



作成した農場管理マニュアル

HP・SNS等

HP：http://suzuki-nosan.com/home/

ご静聴ありがとうございました。



自助・共助・公助連携の

実践手段 GAP で

農作業事故の撲滅を目指す

